

Ⅲ 一般町民調査結果

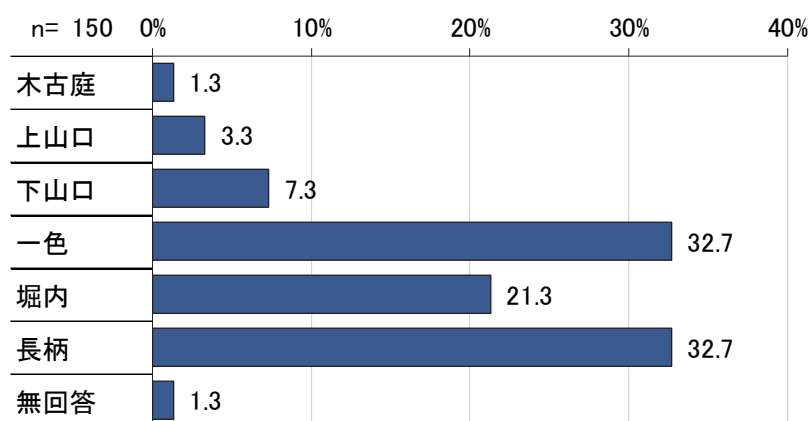
1 基本属性

(1) 居住する地区

問1 お住まいの地区はどちらですか

(○はひとつだけ)

居住地区は、「一色」「長柄」が各 32.7%、「堀内」が 21.3%、他の地区は1～7%となっています。

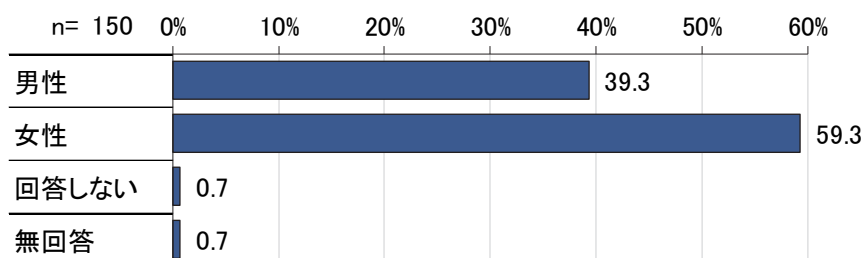


(2) 性別

問2 性別はどちらですか

(○はひとつだけ)

性別は、「男性」が 39.3%、「女性」が 59.3%となっています。

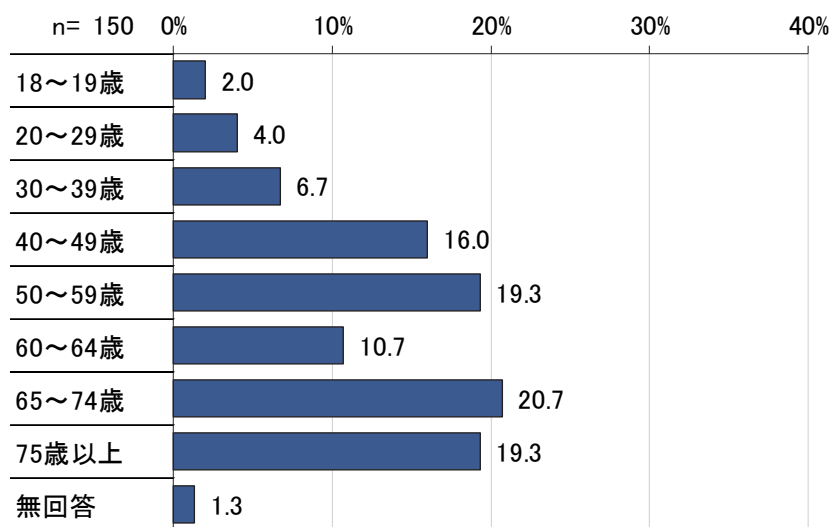


(3) 年齢

問3 年齢はおいくつですか

(○はひとつだけ)

年齢は、「65～74 歳」が 20.7%で最も高く、「50～59 歳」「75 歳以上」が各 19.3%、「40～49 歳」が 16.0%、「60～64 歳」が 10.7%、18～39 歳はそれぞれ1割を下回っています。



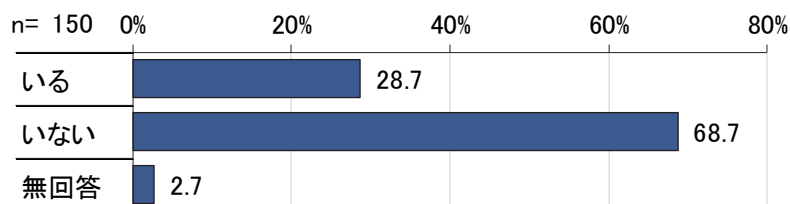
2 障害のある人との関わりについて

(1) 身近な障害のある人の存在

問4 まわりに障害のある人はいらっしゃいますか

(○はひとつだけ)

まわりに障害のある人が「いる」と回答した人は 28.7%、「いない」は 68.7%を占めています。

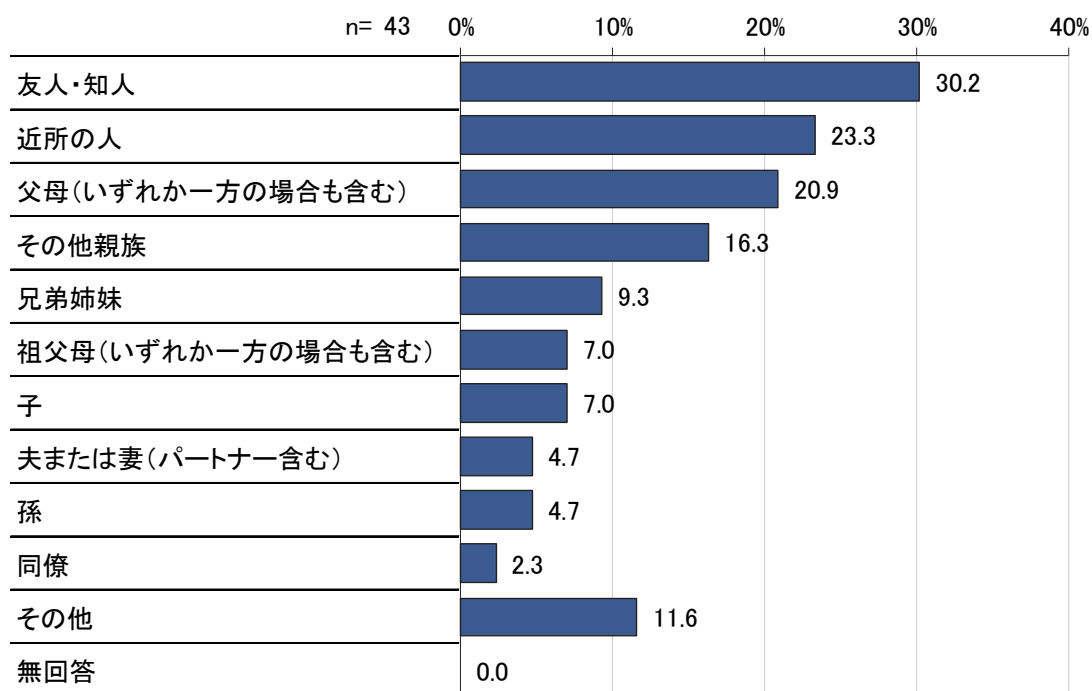


(2) 身近な障害のある人との間柄

問5 まわりにいる障害のある人はどなたですか

(○はいくつでも)

まわりにいる障害のある人は、「友人・知人」が 30.2%で最も高く、次いで「近所の人」が 23.3%、「父母」が 20.9%、「その他親族」が 16.3%となっています。

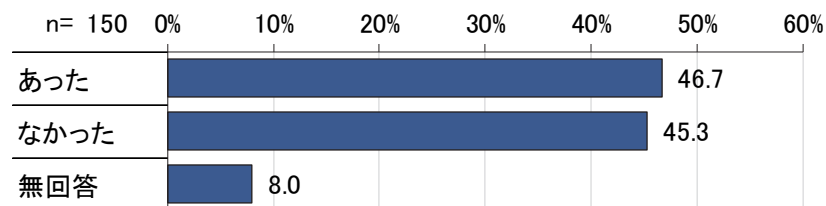


(3)障害のある人との交流の機会

問6 これまでに障害のある人と交流を持つ機会がありましたか

(○はひとつだけ)

これまで障害のある人との交流を持つ機会が「あった」と回答した人が46.7%、「なかった」と回答した人が45.3%となっています。

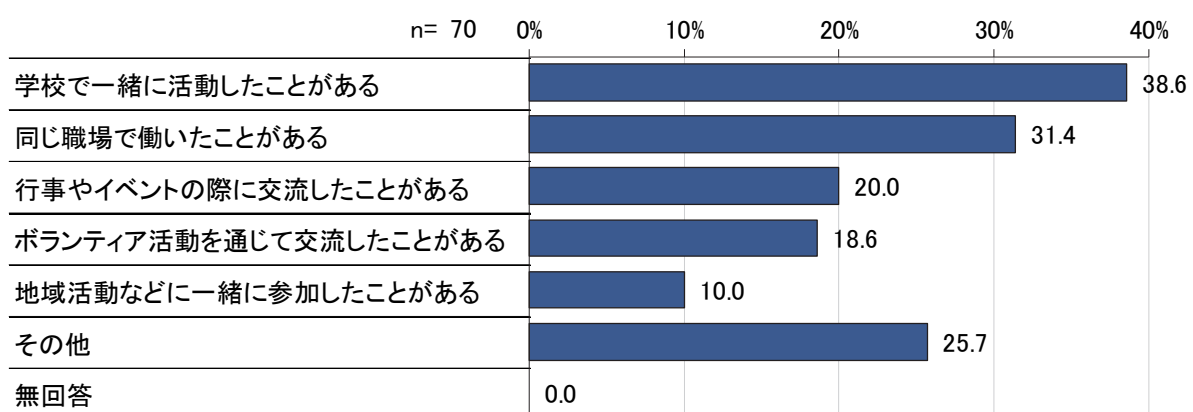


(4)障害のある人との交流の種類

問7 これまでにどのような交流の機会がありましたか

(○はいくつでも)

これまでに障害のある人と交流した機会としては、「学校で一緒に活動したことがある」が38.6%で最も高く、次いで「同じ職場で働いたことがある」(31.4%)、「その他」(25.7%)、「行事やイベントの際に交流したことがある」(20.0%)となっています。

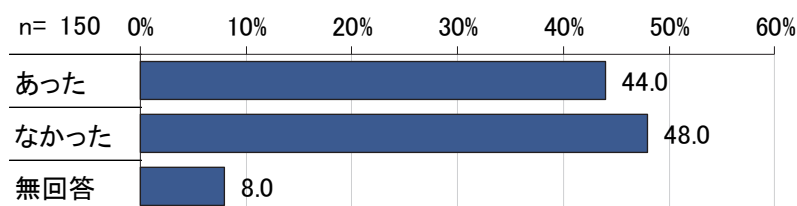


(5)障害のある人への手伝い・支援の経験

問8 これまでに1回でも、障害のある人に何らかのお手伝いや支援をしたことがありましたか

(○はひとつだけ)

これまでに障害のある人に何らかの手伝いや支援をしたことが「あった」と回答した人は44.0%、「なかった」と回答した人は48.0%とそれぞれ4割台となっています。

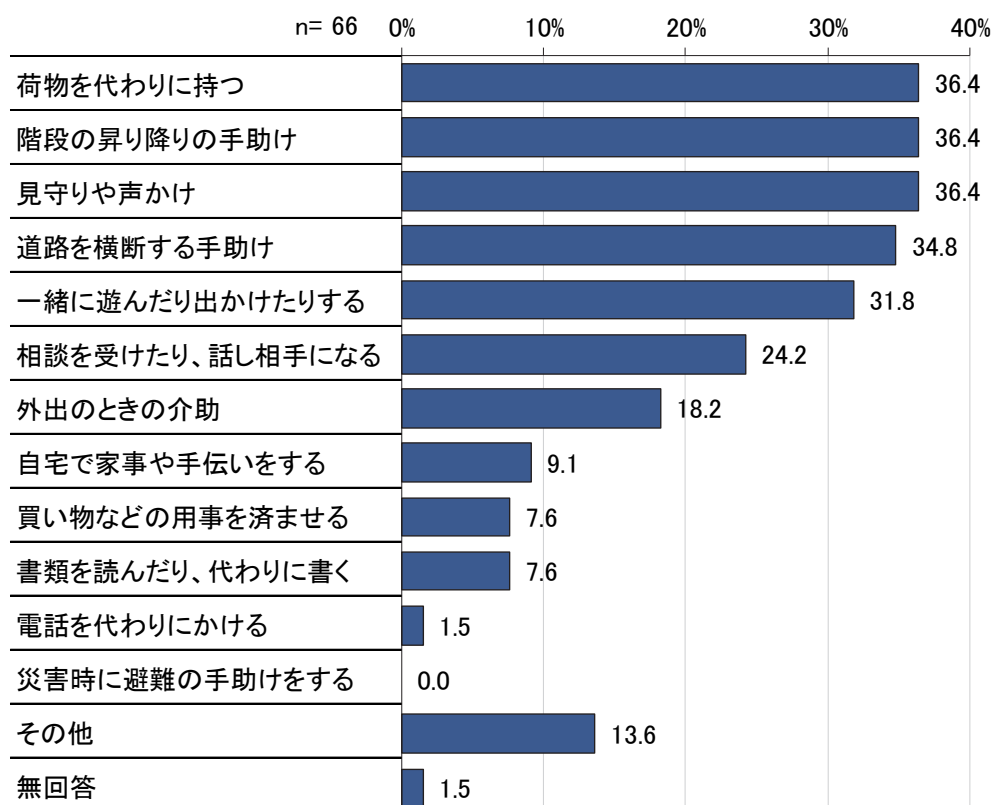


(6)障害のある人への手伝い・支援の種類

問9 どのようなお手伝いや支援を行いましたか

(○はいくつでも)

これまでにどのような手伝いや支援を行ったかを聞いたところ、「荷物を代わりに持つ」「階段の昇り降りの手助け」「見守りや声かけ」が各36.4%で最も高く、次いで「道路を横断する手助け」(34.8%)、「一緒に遊んだり出かけたりする」(31.8%)となっています。

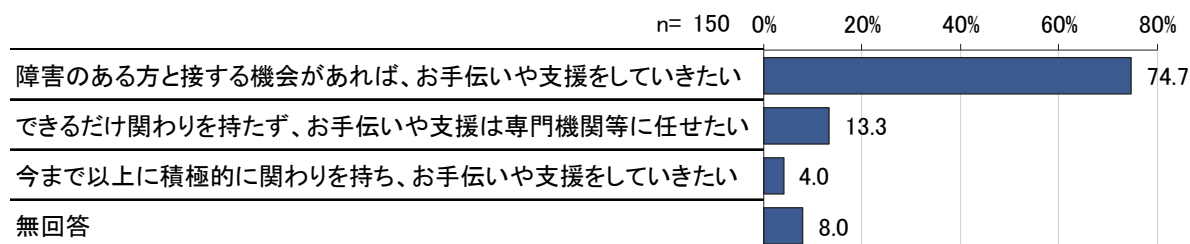


(7) 今後の障害のある人への支援の意向について

問 10 あなたは、今後、障害のある人に対して、積極的にお手伝いや支援をして
いきたいと思いますか

(○はひとつだけ)

今後、障害のある人に対しては、「今まで以上に積極的に関わりを持ち、お手伝いや支援をしていきたい」は 4.0%に留まりますが、「障害のある人と接する機会があれば、お手伝いや支援をしていきたい」は 7 割以上の回答を占めています。

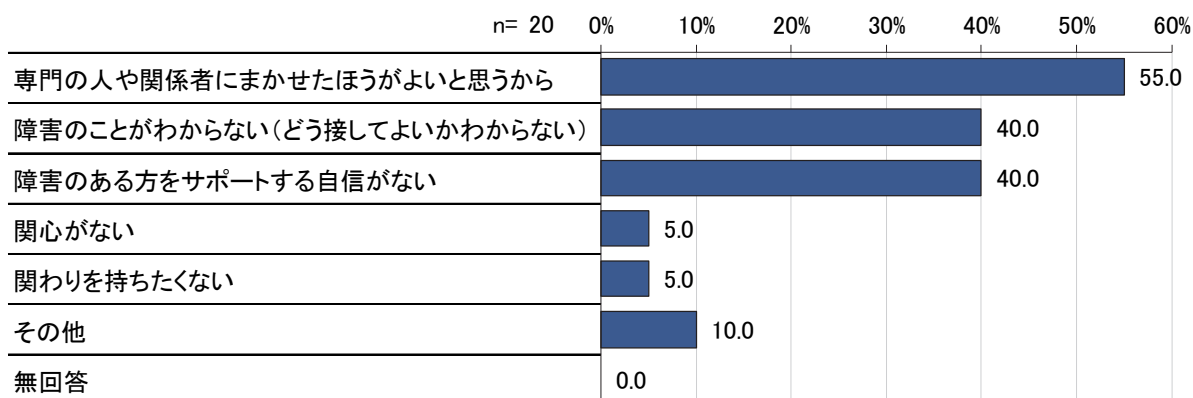


(8) 障害のある人への支援に積極的になれない理由

問 11 障害のある人への支援に積極的になれない理由はどのようなことですか

(○はいくつでも)

障害のある人への支援に積極的になれない理由としては、「専門の人や関係者にまかせたほうがよいと思うから」(55.0%)、「障害のことがわからない(どう接してよいかわからない)」「障害のある人をサポートする自信がない」(各 40.0%)の回答の割合が高くなっています。



(9)障害のある人への支援に関心がない理由

問 12 障害のある人への支援に関心がない理由はどのようなことですか

(自由記述)

回答数…1件

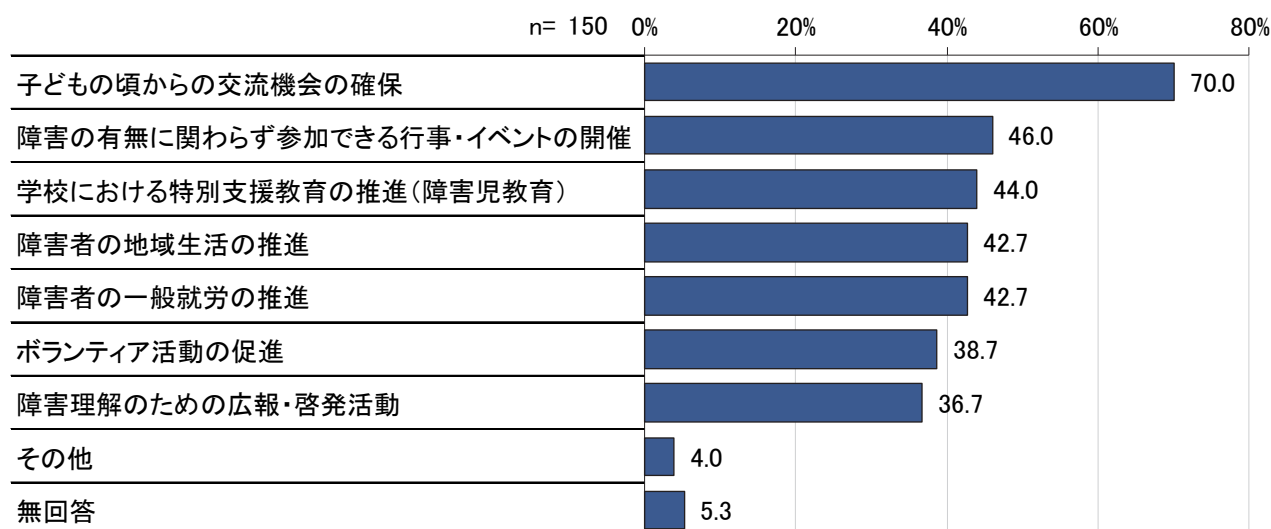
・介護の世話にならず今のところ一人でやっています。「障害者の世話をする余力がない」が全てです。

(10)相互の理解・交流の促進のために大切なこと

問 13 今後、障害のある人となない人が互いに理解を深め、交流を図り、地域共生社会を実現するためにどのようなことが大切だと思いますか

(〇はいくつでも)

今後、障害のある人となない人が相互理解を深め、交流を図り、地域共生社会を実現するにはどんなことが大切と思うかについては、「子どもの頃からの交流機会の確保」と回答した人が70.0%で最も高く、次いで「障害の有無に関わらず参加できる行事・イベントの開催」(46.0%)、「学校における特別支援教育の推進(障害児教育)」(44.0%)、「障害者の地域生活の推進」「障害者の一般就労の推進」(各 42.7%)となっています。



3 ボランティア活動について

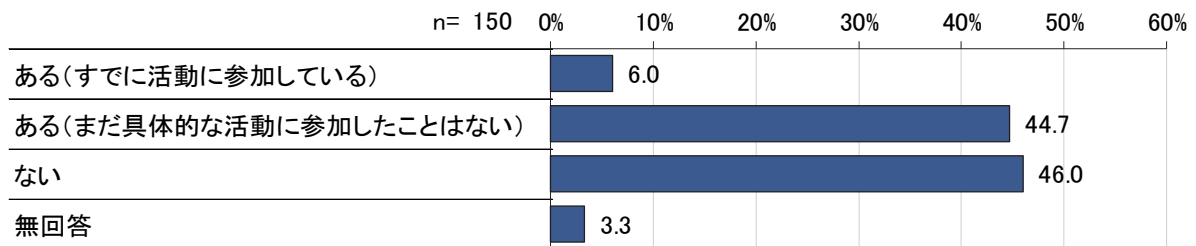
(1) 障害のある人に関わるボランティア活動への関心

問 14 障害のある人に関わるボランティア活動に関心はありますか

(○はひとつだけ)

障害のある人に関わるボランティア活動への関心については、すでに活動に参加している人、まだ参加されていない人を合計した“関心がある”は 50.7%となっています。

関心がある層が半数を占める一方で、46.0%の人が「ない」と回答しています。

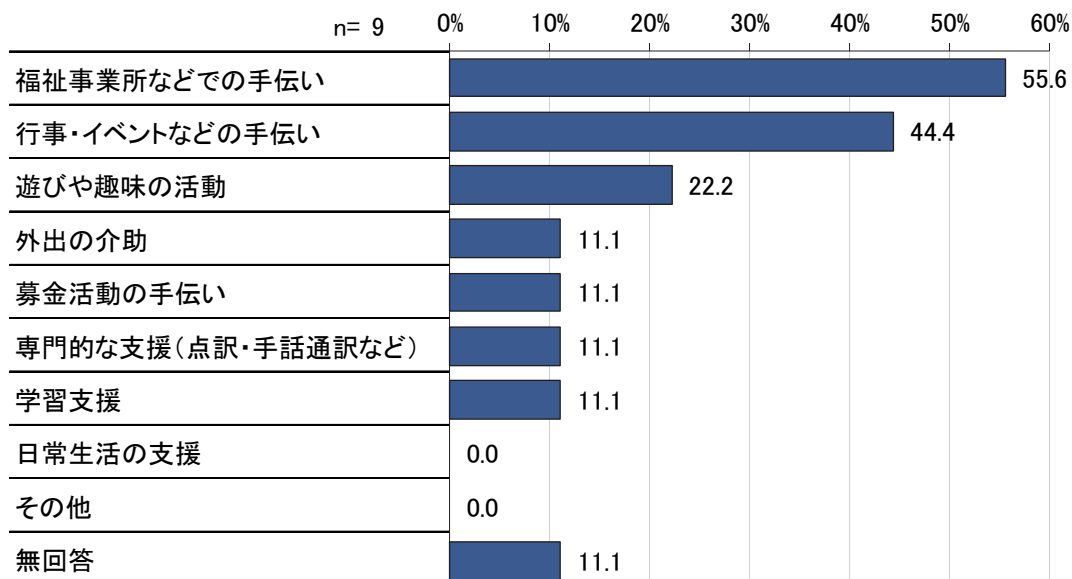


(2) これまでに参加したことの活動

問 15 これまでに参加したことがある活動はどのようなことですか

(○はいくつでも)

これまでに参加したことがある活動は、「福祉事業所などでの手伝い」が 55.6%、「行事・イベントなどの手伝い」が 44.4%、「遊びや趣味の活動」が 22.2%となっています。

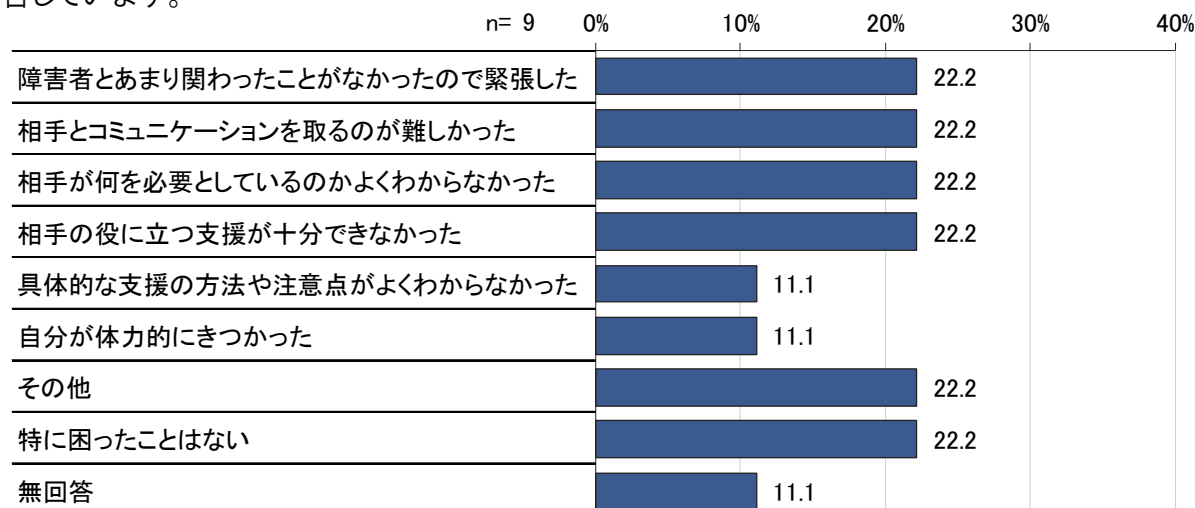


(3) ボランティア活動に参加してみても困ったこと

問 16 実際にボランティア活動に参加してみても、困ったことはありましたか

(○はいくつでも)

ボランティアに参加してみても困ったことについては、それぞれ 22.2%の人が「障害のある人とあまり関わったことがなかったので緊張した」「相手とコミュニケーションを取るのが難しかった」「相手が何を必要としているのかよくわからなかった」「相手の役に立つ支援が十分できなかった」と回答しています。

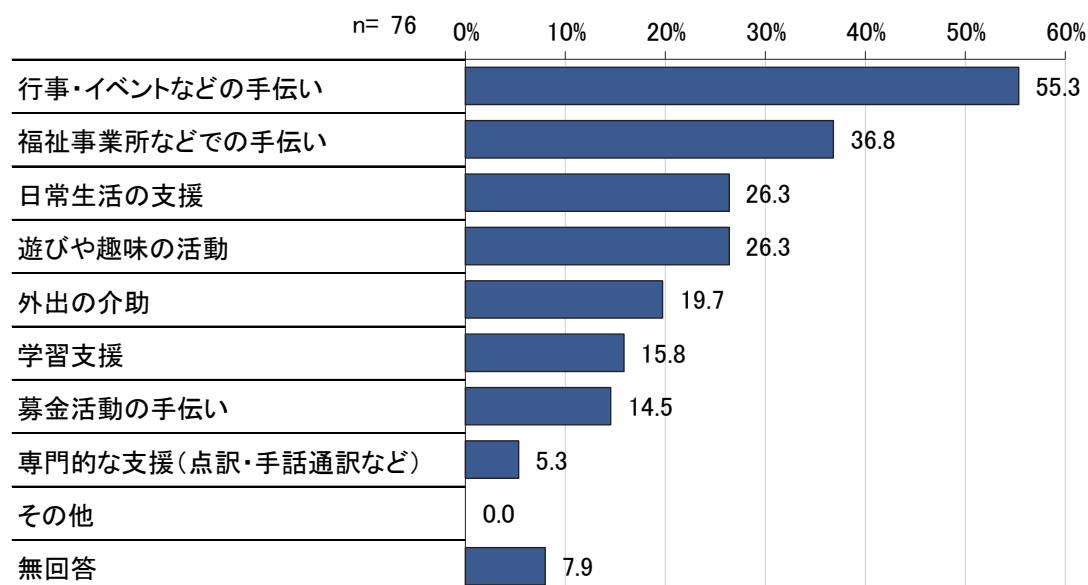


(4) 今後のボランティア活動への参加意向

問 17 すでに参加している活動も含め、今後、どのようなボランティア活動に参加したいと思いますか

(○はいくつでも)

今後ボランティア活動への参加意向については、「行事・イベントなどの手伝い」が 55.3%で最も高く、次いで「福祉事業所などの手伝い」(36.8%)となっています。

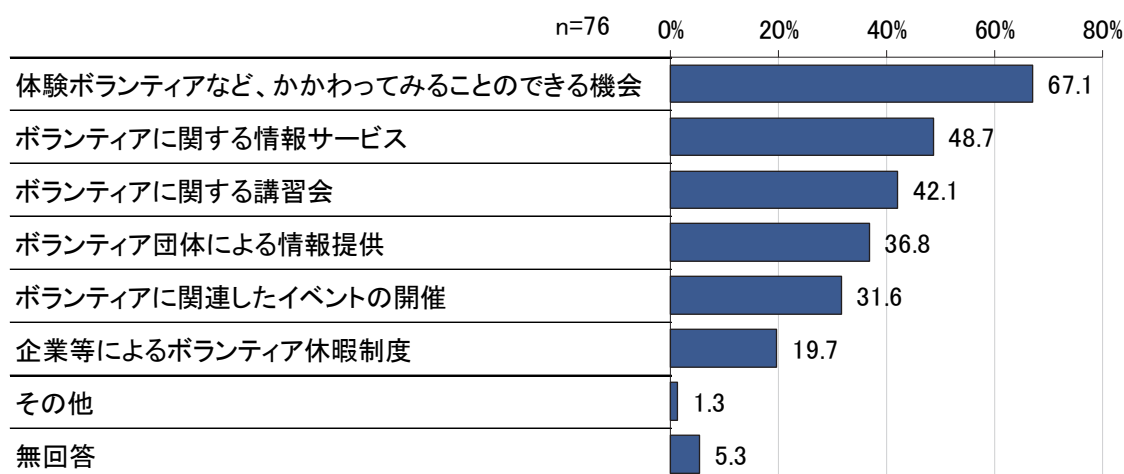


(5) ボランティア活動に参加するために必要なこと

問 18 ボランティア活動に参加するために必要と思えることは何ですか

(○はいくつでも)

ボランティア活動に参加するために必要なこととしては、「体験ボランティアなど、かかわってみることのできる機会」が 67.1%と最も高く、次いで「ボランティアに関する情報サービス」(48.7%)、「ボランティアに関する講習会」(42.1%)、「ボランティア団体による情報提供」(36.8%)となっています。

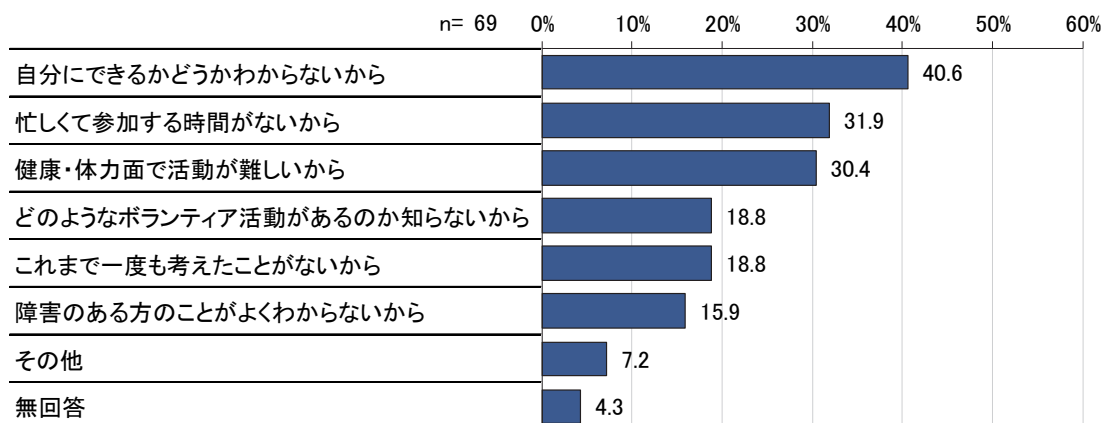


(6) 障害のある人に関わるボランティア活動への関心がない理由

問 19 障害のある人に関わるボランティア活動に関心がない理由はどのようなことですか

(○はいくつでも)

障害のある人に関わるボランティア活動に関心がない理由としては、「自分にできるかどうかわからないから」と回答した人が 40.6%で最も高く、次いで「忙しくて参加する時間がないから」が 31.9%、「健康・体力面で活動が難しいから」が 30.4%となっています。



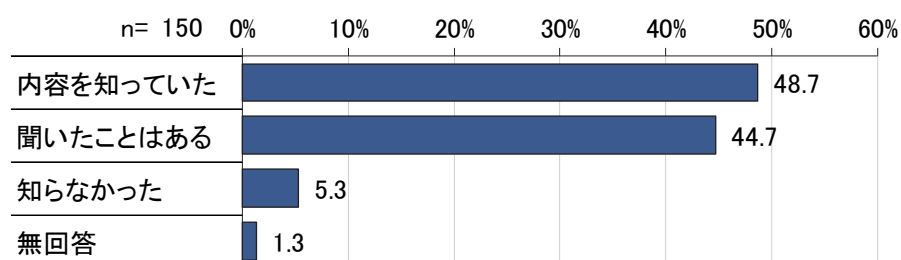
4 障害のある子どもの教育について

(1) 発達障害の認知状況

問 20-① 障害のある子どもに関わる次のような言葉を知っていましたか ①発達障害

(○はひとつだけ)

障害のある子どもの教育に関わる言葉の周知状況をみると、①発達障害については「内容を知っていた」と回答した人が 48.7%、「聞いたことはある」とした人が 44.7%となっています。

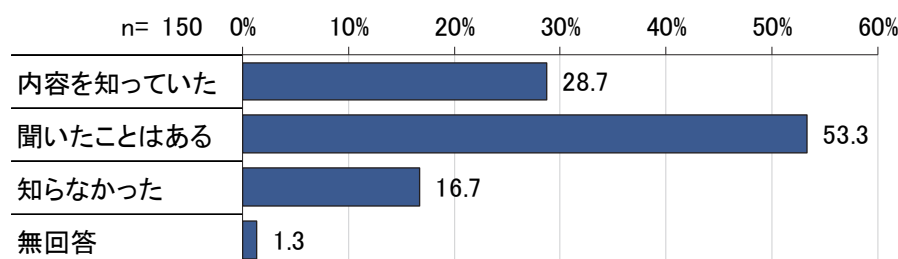


(2) 特別支援教育の認知状況

問 20-② 障害のある子どもに関わる次のような言葉を知っていましたか ②特別支援教育

(○はひとつだけ)

障害のある子どもに関する言葉の周知状況をみると、②特別支援教育については「聞いたことはある」と回答した人が 53.3%と最も高く、「内容を知っていた」と回答した人は 28.7%となっています。

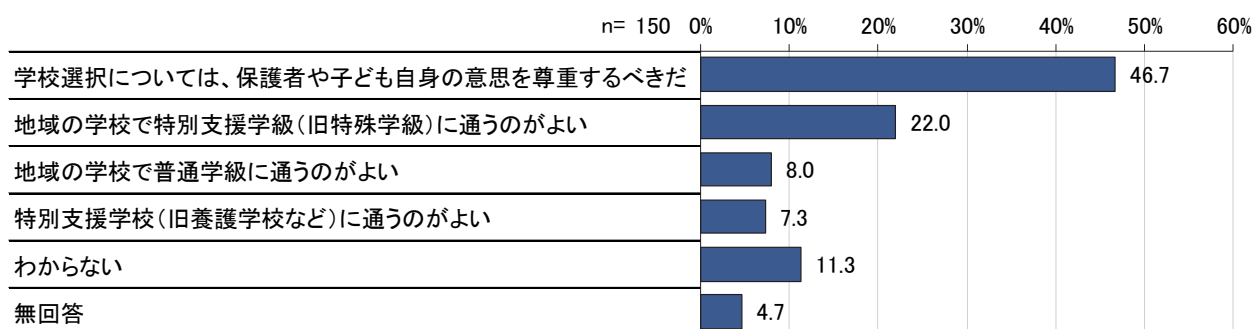


(3)障害のある子どもの学びの場について

問 21 障害のある子どもの学びの場についてどのように思いますか

(○はひとつだけ)

障害の学びの場については、「学校選択については、保護者や子ども自身の意思を尊重するべきだ」と回答した人が 46.7%と最も高く、次いで「地域の学校で特別支援学級(旧特殊学級)に通うのがよい」(22.0%)、「地域の学校で普通学級に通うのがよい」(8.0%)となっています。

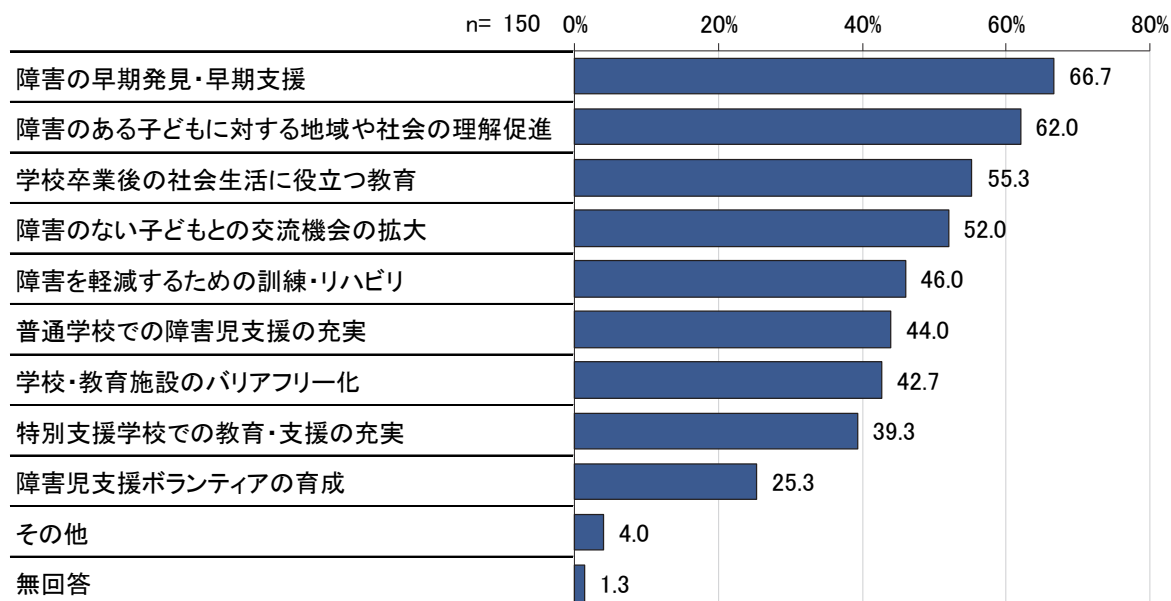


(4)障害のある子どもの健全な育成のために必要な取り組み

問 22 障害のある子どもの健全な育成のために、今後どのような取り組みが必要だと思いますか

(○はいくつでも)

障害のある子どもの健全な育成のために必要な取り組みについては、「障害の早期発見・早期支援」が 66.7%と最も高く、次いで「障害のある子どもに対する地域や社会の理解促進」(62.0%)、「学校卒業後の社会生活に役立つ教育」(55.3%)、「障害のない子どもとの交流機会の拡大」(52.0%)となっています。



5 障害のある人の就労について

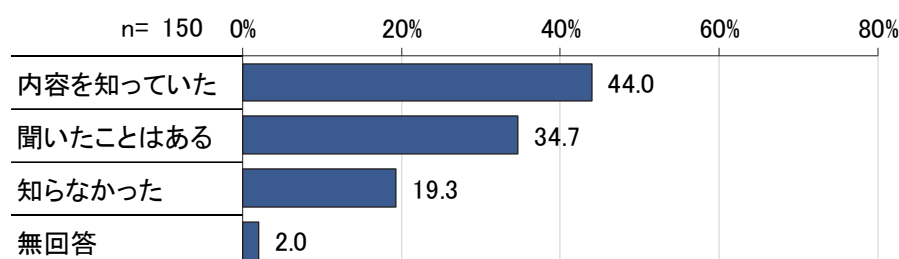
(1) 法定雇用率の認知状況

問 23-① 障害のある人の就労に関わる次のような言葉を知っていましたか

①法定雇用率

(○はひとつだけ)

障害のある人の就労に関わる言葉の周知状況をみると、①法定雇用率については「内容を知っていた」と回答した人が 44.0%と最も高く、次いで「聞いたことはある」(34.7%)、「知らなかった」(19.3%)となっています。



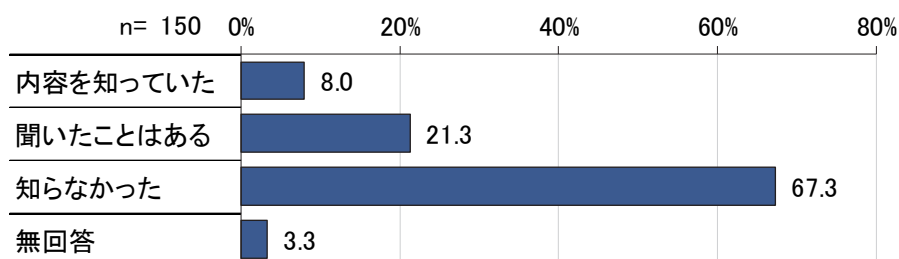
(2) ジョブコーチの認知状況

問 23-② 障害のある人の就労に関わる次のような言葉を知っていましたか

②ジョブコーチ (職場適応援助者)

(○はひとつだけ)

障害のある人の就労に関わる言葉の周知状況をみると、②ジョブコーチ(職場適応援助者)については、「内容を知っていた」と回答した人は 8.0%に留まり、「知らなかった」は 67.3%となっています。

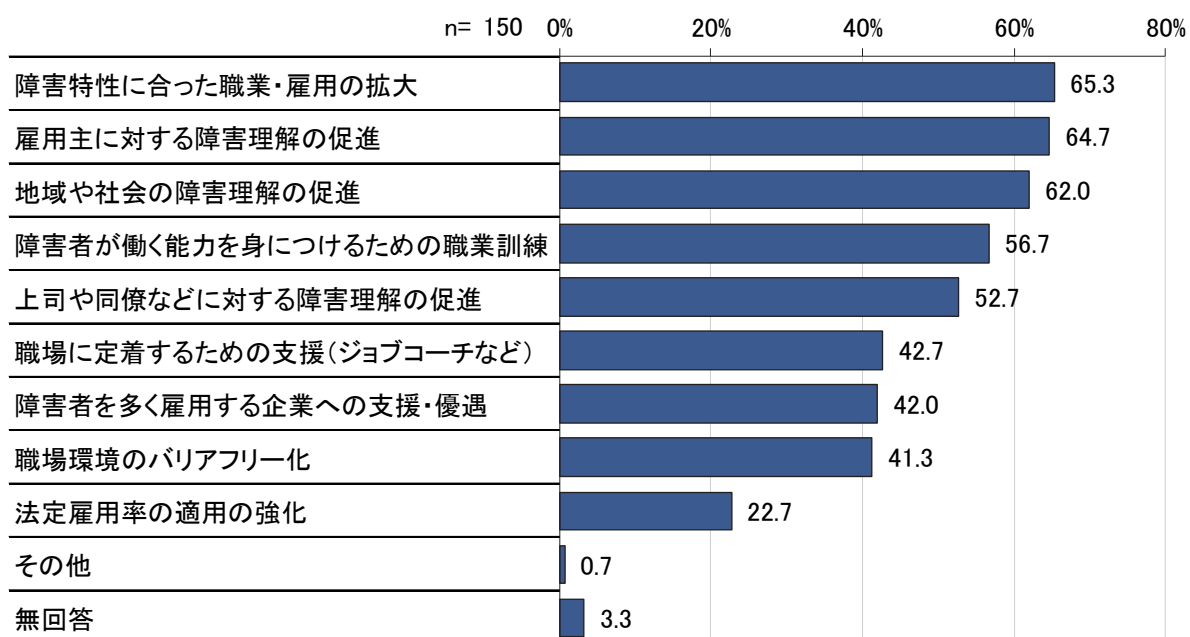


(3)障害のある人の企業等での就労のために必要な取り組み

問 24 より多くの障害のある人が企業などで働くために、今後どのような取り組みが必要だと思いますか

(〇はいくつでも)

より多くの障害のある人が企業などで働くために、今後必要と思う取り組みについては、「障害特性に合った職業・雇用の拡大」と回答した人が 65.3%と最も高く、次いで「雇用主に対する障害理解の促進」(64.7%)、「地域や社会の障害理解の促進」(62.0%)、「障害のある人が働く能力を身につけるための職業訓練」(56.7%)、「上司や同僚などに対する障害理解の促進」(52.7%)となっています。



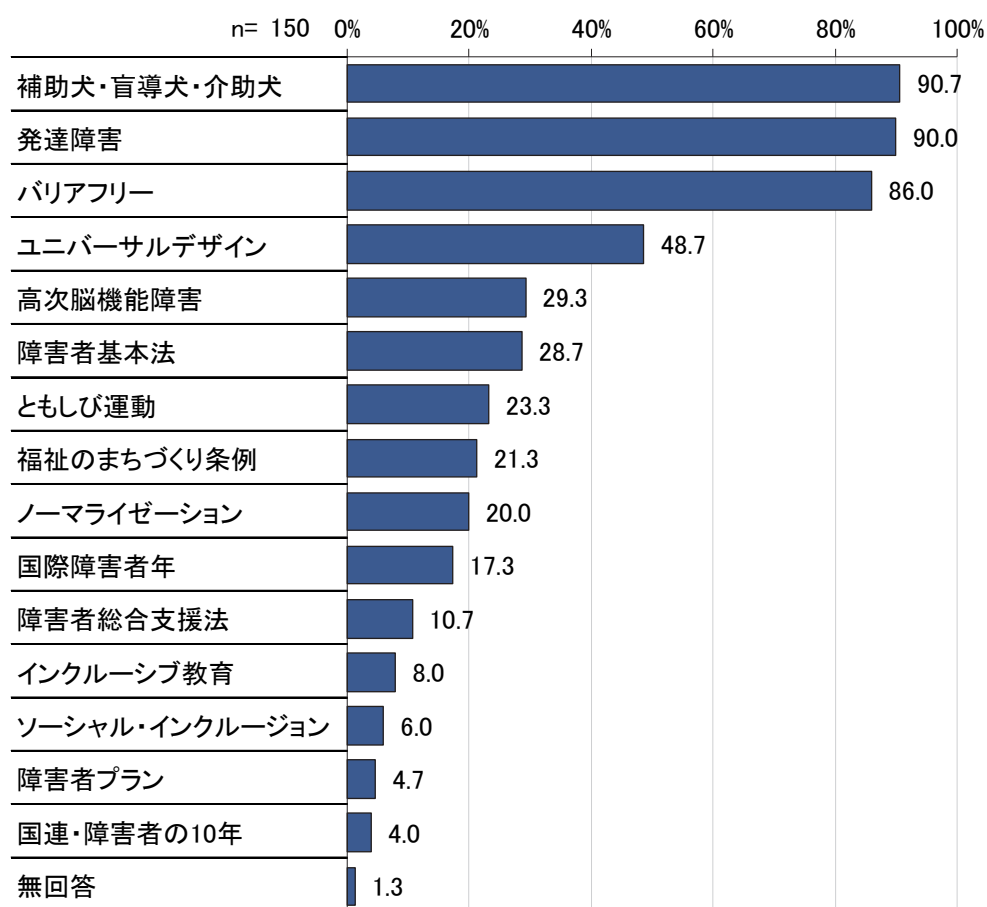
6 障害福祉に対する意識について

(1) 障害福祉に関わる言葉の認知状況

問 25 障害福祉に関わる次のような言葉を知っていましたか

(○はいくつでも)

障害福祉に関わる言葉の認知状況については、「補助犬・盲導犬・介助犬」と回答した人が90.7%で最も高く、次いで「発達障害」が90.0%、「バリアフリー」が86.0%となっています。

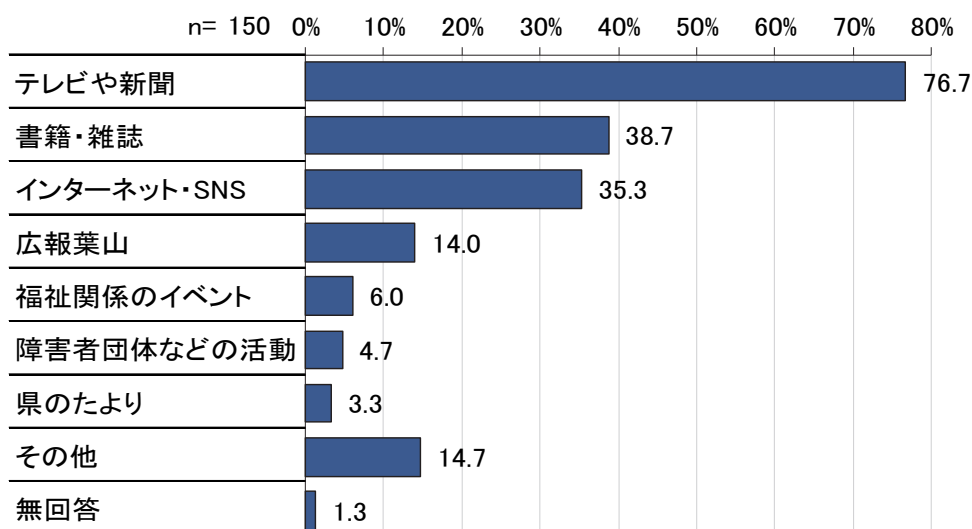


(2)障害福祉に関わる言葉を知った媒体

問 26 何を通じてその言葉を知ったり、聞いたりしましたか

(○はいくつでも)

障害福祉に関わる言葉を知ったり、聞いたのは、「テレビや新聞」が76.7%で最も高く、次いで「書籍・雑誌」(38.7%)、「インターネット・SNS」(35.3%)、「広報葉山」(14.0%)となっています。

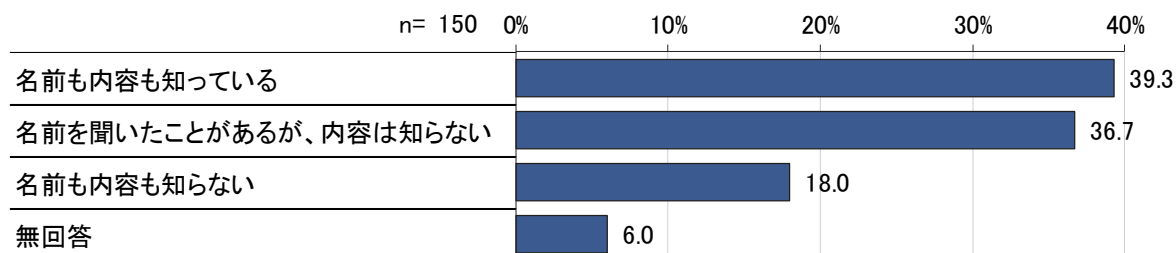


(3)成年後見制度の認知状況

問 27 成年後見制度についてご存じですか

(○はひとつだけ)

成年後見制度の認知状況については、「名前も内容も知っている」と回答した人が39.3%と最も高くなっています。「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」(36.7%)と「名前も内容も知らない」(18.0%)を合わせた“内容を知らない”は54.7%となり、「知っている」を上回る結果となっています。

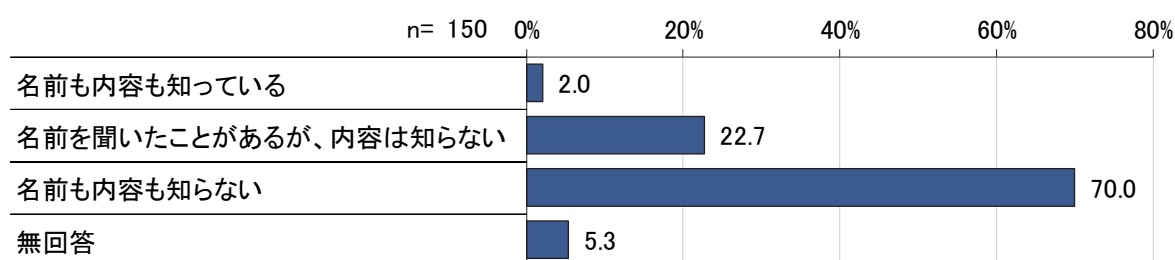


(4) 障害者差別解消法の認知状況

問 28 あなたは「障害者差別解消法」についてご存じですか

(○はひとつだけ)

障害者差別解消法の認知状況については、「名前も内容も知っている」と回答した人が 2.0% となっています。「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」(22.7%)と「名前も内容も知らない」(70.0%)を合わせた9割以上の人が“知らない”という結果となっています。

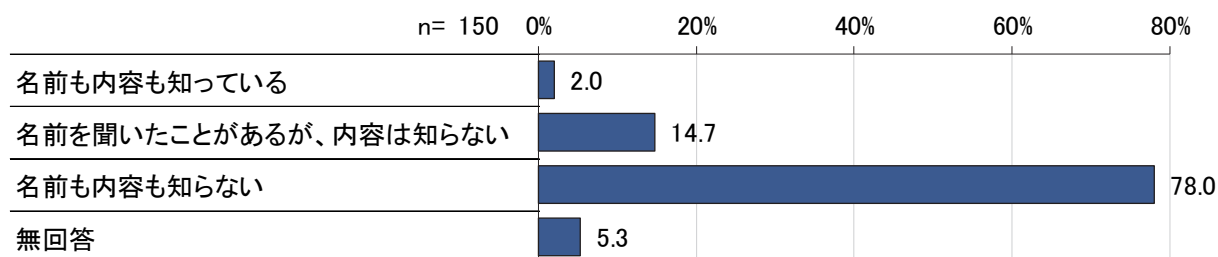


(5) 合理的配慮の認知状況

問 29 あなたは障害者差別解消法で求められる「合理的配慮」についてご存じですか

(○はひとつだけ)

前問の法律で求められる「合理的配慮」の認知状況については、「名前も内容も知っている」と回答した人は 2.0% となっています。「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」(14.7%)、「名前も内容も知らない」(78.0%)と、障害者差別解消法の認知状況と同様の割合となっています。



(6)障害を理由とした差別について

問 30-① 周囲には、障害を理由とした差別があると思いますか

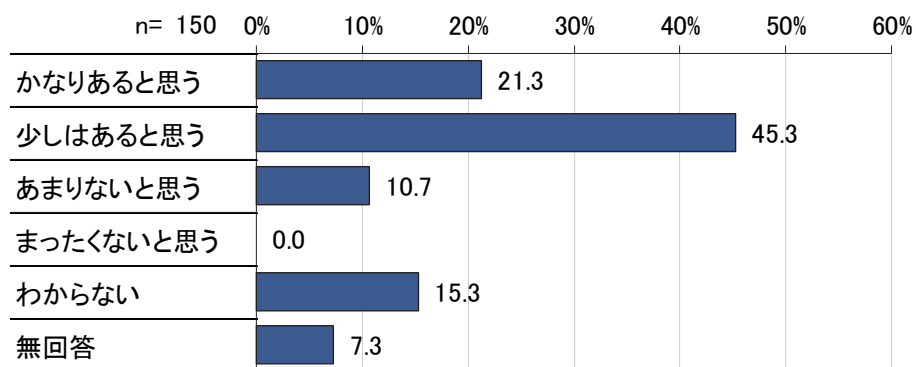
(○は各項目ひとつだけ)

周囲に障害が理由の差別があると思うかについて、①教育・保育機関や②職場では差別が「かなりあると思う」との回答が2割を超え、「少しはあると思う」との回答を合わせると、6割以上の人が“あると思う”と回答しています。

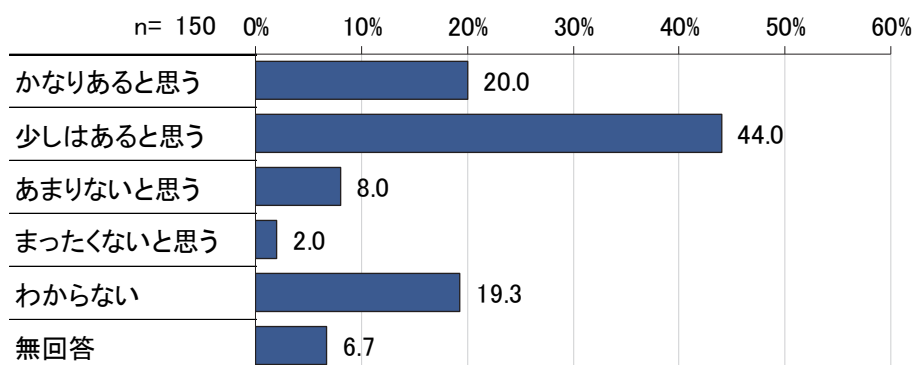
その他“あると思う”と回答した人は、③地域社会は48.6%、④サークル活動・⑤葉山町全体は各36.7%、となっています。

一方で、③～⑤では、「あまりないと思う」と回答された人も2割を超えています。

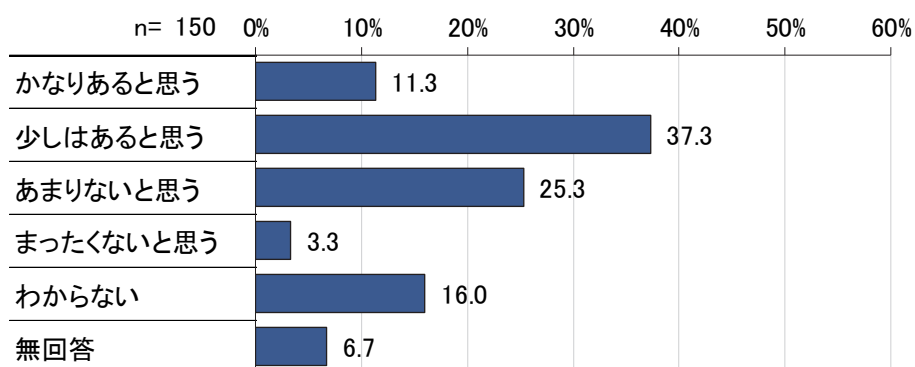
①教育・保育機関での差別



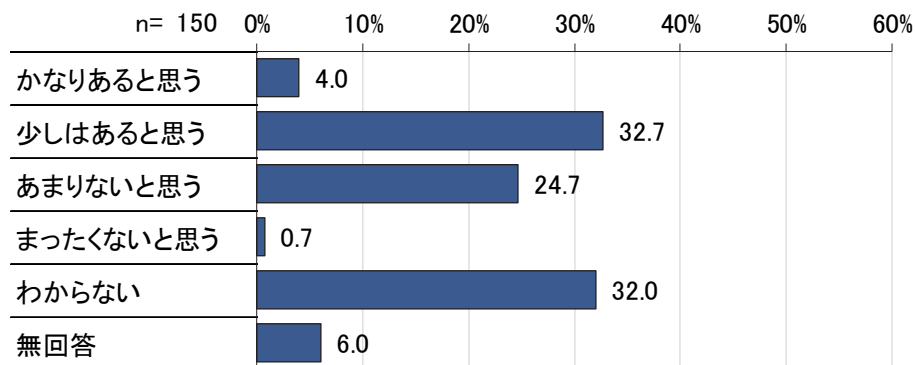
②職場での差別



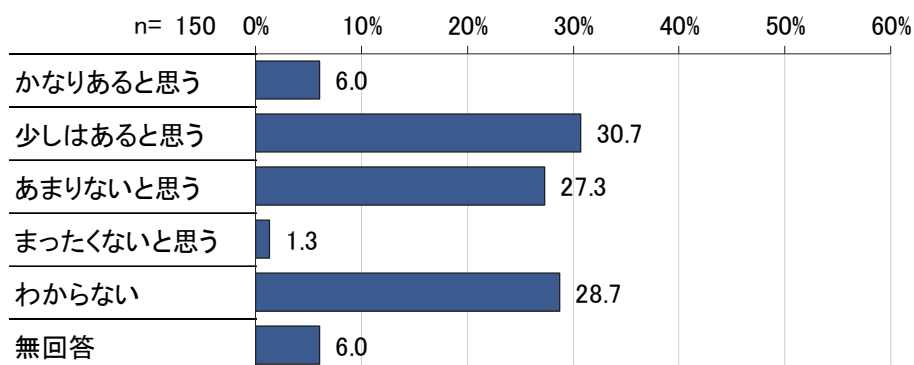
③地域社会での差別



④サークル活動での差別



⑤葉山町全域での差別



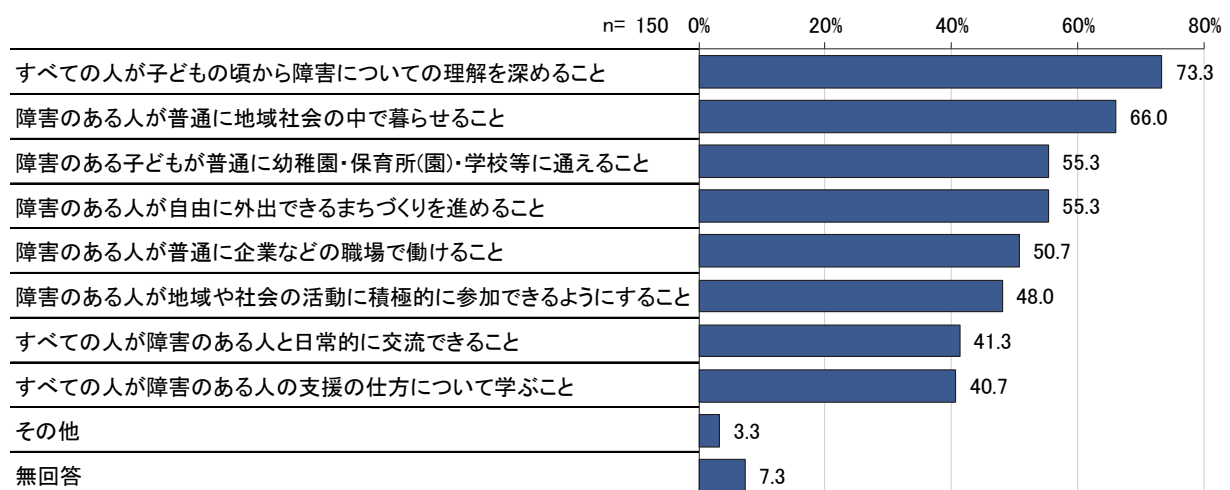
(7)ともに同じ社会で活動していくために大切なこと

問 31 今後、より一層、障害に対する理解を深め、障害の有無にかかわらずともに同じ社会の中で活動していくためには、どのようなことが大切だと思いますか

(〇はいくつでも)

障害に対する理解をより一層深め、ともに同じ社会で活動するために大切だと思うことについては、「すべての人が子どもの頃から障害についての理解を深めること」と回答した人が73.3%と最も高くなっています。

次いで「障害のある人が普通に地域社会の中で暮らせること」(66.0%)、「障害のある子どもが普通に幼稚園・保育所(園)・学校等に通えること」「障害のある人が自由に外出できるまちづくりを進めること」(各 55.3%)、「障害のある人が普通に企業などの職場で働けること」(50.7%)となっています。



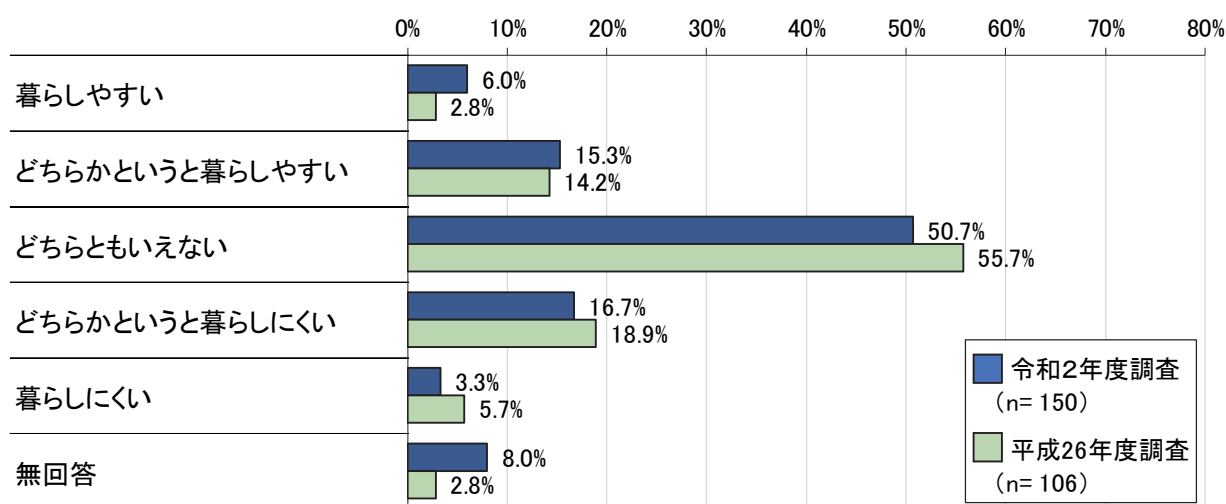
7 障害者施策について

(1) 葉山町の暮らしやすさ

問 32 総合的にみて、現在の葉山町は障害のある人にとって暮らしやすいまち
だと思われますか

(○はひとつだけ)

総合的にみて、現在の葉山町は障害のある人にとって暮らしやすいと思うかについては、全体に関して、「どちらともいえない」と回答した人が 50.7%と半数を占め、「暮らしやすい」と「どちらかという暮らしやすい」を合わせた“暮らしやすい”と回答した人は、令和2年度調査では 21.3%、平成 26 年度調査では 17.0%となっており、比較すると 4.3 ポイント高くなっています。



(2)障害者施策の充実のために重要な取り組み

問 33 今後、障害者施策の充実を図る上で、重要と思われる取り組みはどのようなことだと思いますか

(〇はいくつでも)

障害者施策の充実のために重要と思う取り組みについては、「バリアフリー」と回答した人が62.0%と最も高く、次いで「能力に応じた職業訓練の充実」が54.0%、「障害者の安心の確保」(44.7%)、「相談体制の充実」(43.3%)となっています。

「財産管理の援助、成年後見制度等の充実」(22.7%)を除くすべての項目で、3割を超える回答が寄せられています。

